



第4回

TOKYO / FUKUSHIMA

研究発表会 in 東京



▲企業展

日程:

研究発表会 平成 27 年 7 月 8 日 (水) ~ 9 日 (木)
口頭発表 62 件、ポスター発表 46 件、参加者 延べ 400 名
国際シンポジウム 7 月 10 日 (金)
招聘講師 6 名、参加者 150 名
企業展示 7 月 8 日 (水) ~ 9 日 (木)
参加企業 41 社
懇親会 7 月 9 日 (木) 17:30 ~

場 所: タワーホール船堀 (東京都江戸川区)

第 4 回環境放射能除染研究発表会が、上記日程で多くの参加者を迎えて開催されました。

【開催概要総括】

7 月 8 日 10 時の開催時には、実行委員長の森田昌敏より開会の挨拶、続いて環境省水大気環境局長の三好信俊様から開催のご祝辞と激励のお言葉を頂戴いたしました。

今回の研究発表会の特徴は、除染物の減容化技術およ

びそれに関連する案件が増えてきたことです。また、保管・貯蔵についても相当数の発表がありました。研究調査も積み重なってきたのでしょうか、陸域・水域、森林、農地等の環境での放射性セシウム動態についての発表も増えてきました。除染については従来と同様に多くの発表がありますが、新規の測定技術を活用した事例や研究調査が報告されました。

そして、今回は企画セッションとして、国立環境研究所と



▲森田理事長の開会挨拶



▲三好信俊 環境省水・大気環境局長から開催の祝辞



▲研究発表会



▲懇親会

主催：一般社団法人 環境放射能除染学会
共催：環境省
一般社団法人 廃棄物資源循環学会
公益社団法人 日本保安用品協会
NPO 法人 Ecolink21 環境国際総合機構
日本放射線安全管理学会

後援：環境省福島環境再生事務所
国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
一般社団法人 土壌環境センター
一般社団法人 日本環境測定分析協会
公益社団法人 高分子学会
NPO 法人環境測定品質管理センター
一般財団法人 日本環境衛生センター
一般社団法人 日本原子力学会
日本放射化学会
一般社団法人 日本建設業連合会
公益社団法人 地盤工学会
日本商工会議所
福島商工会議所
郡山商工会議所

公益社団法人 日本水環境学会
公益社団法人 日本工学会アカデミー
公益社団法人 日本化学会
公益社団法人 日本分析化学会

中間貯蔵・環境安全事業株式会社
国立研究開発法人 国立環境研究所
公益社団法人 日本気象学会
一般社団法人 日本環境アセスメント協会
一般社団法人 日本機械学会
一般社団法人 日本環境化学会
公益社団法人 大気環境学会
公益社団法人 土木学会
公益社団法人 化学工学会
エコケミストリー研究会
一般社団法人 海洋調査協会
東京商工会議所
福島県
公益財団法人 郡山コンベンションビューロー

中間貯蔵・環境安全株式会社 (JESCO) とジョイントセッションを行いました。昨年末に中間貯蔵を管理する団体として国の法律で組織された JESCO からは、中間貯蔵に向けての課題、国立環境研究所からは中間貯蔵のための減容化技術について講演があり、「30 年後の最終処分の姿」というようなお話もありました。

7 月 10 日には、本研究発表会の締めくくりとして、環境省と共催となる国際シンポジウムを、一般市民無料開放で開催しました。今回、講師の皆様には放射能汚染の環境動態というテーマでお願いしました。福島での実態を広く理解して頂くためです。環境省の早水審議官には「除染及び中間貯蔵の現状」というお話を、冒頭にいただきました。その後日本側の 3 名の講師の方にお話をいただきました。

また、29 年前のチェルノブイリ原子力発電所事故等から営々と環境放射能について調査研究を蓄積している欧州から、2 名の招待講演を実施いたしました。

研究発表会に併設された環境放射能除染関連技術の企業展は、実際の技術利用や具体的な技術を知る必要から企業技術展示を毎回併設しておりますが、今回は 41 社の展示がありました。先進の技術、実績のある技術、これからの課題に向けて、中間貯蔵の遮断・遮水技術や、減容化技術等が展示されました。詳しくは、実行委員会からの各報告をご覧ください。

(文責：実行委員会事務局)

(1) 研究発表会(口頭発表) 会場からの報告

口頭発表会場は、2 日間にわたり、大ホール (750 名収容)、小ホール (350 名収容) の 2 会場で行いました。56 名の講演者による発表が行われ、会場は熱心な参加者で埋まり常に熱気に溢れていました。

今回の発表の時間は、15 分 (発表 12 分、質疑応答 3 分) とさせて頂きました。短い時間の中でありましたが、講演者に対して様々な質疑が投げかけられ、関心の高さと理解がよりいっそう深まったと感じております。

今回から、発表時間の管理については、座長の先生方のご協力も頂き、パソコンの画面上で残り時間の表示を行う手法を採用したので、ほぼスケジュール通りの進行が出来ました。参加者からは、時間通りの進行を評価していただい



▲小ホール研究発表会の様子



◀▲大ホールでの研究発表風景

口頭発表会 会場風景



▲手際の良さが好評だった進行風景
(河津賢澄 副実行委員長:福島大学)

▼質疑の様子



たことは大変ありがたいと感じております。

また、その一方で、熱心な質疑応答が行われた事から、質疑の時間をもう少し確保してほしいとのご意見もあり、今後の課題とさせて頂きたいと考えております。

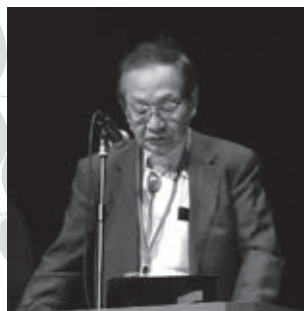
また、今回は新しい試みとして、環境放射能問題の解決に向けて注目されている団体である NIES-JESCO ジョイント企画セッションを設けました。セッションの題目は「放射能含有土壌・廃棄物処理の現状と課題」と題して各発表後に国立環境研究所の大迫センター長をコーディネーターとして総合討論会を開催しましたが、大変盛況でありました。

今回も、非常に多くの参加者を迎えることができ、講演者からも大きな手ごたえを得ることができたとの感想もいただきました。次回の会場運営においても、多くの講演者と参加者を迎え、より充実した口頭発表会場の運営をできるようにしていきたいと思います。

(文責: 口頭発表・国際シンポジウム
会場運営 WG リーダー 神保貴昭:
三友プラントサービス株式会社)

(2) 国際シンポジウム会場からの報告

7月10日(金)に小ホールで開催された「放射能除染のための国際シンポジウム」では、森田実行委員長の開会の辞に続き、環境省の早水輝好氏をはじめ、国内から4名、海外からの招聘演者2名の合計6名による講演が行われました。講演内容等、詳細は国際シンポジウム開催状況をご覧ください。



▲森田実行委員長より国際シンポ開催挨拶

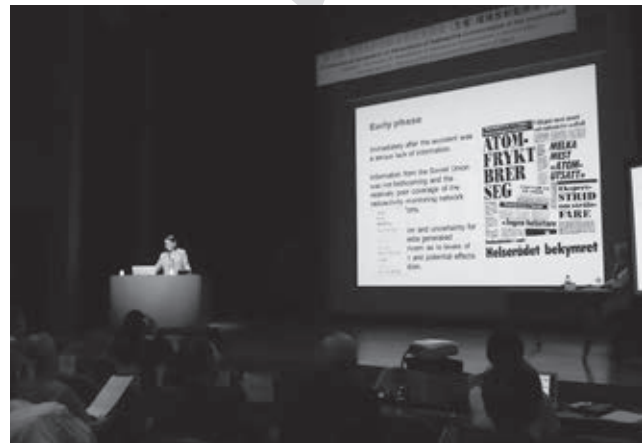
国際シンポジウム 会場風景



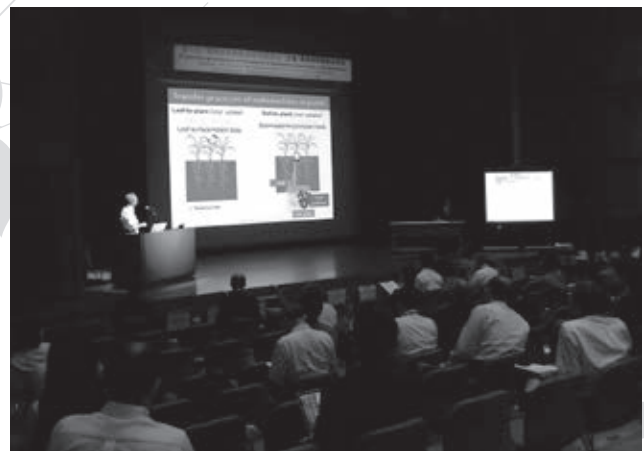
▲早水輝好環境省大臣官房審議官



▲Schneider 講師 Sneave 講師 ▼
福島大学塚田祥文教授からの発表▶



▼場内からの質疑



(3) 企業展示会場からの報告

企業展は研究発表会に併設して7月8日、9日に開催しましたが、同じ会場で両日とも概ね13時～14時の間に、研究発表のポスターセッションを行いました。ポスターセッションには、両日合わせて46件の発表がありました。ポスター発表と企業展を併設したのは第2回開催からとなりま

すが、企業展との相乗効果もあり、各ポスターの前では活発な質疑がなされていました。

また、企業展も今年で第4回となりますが、41団体が参加、盛況のうちに終了しました。展示内容をカテゴリーに分類すると、「計測技術」17団体、「除染技術」10団体、「ICT技術」1団体、「処理・処分技術」1団体、「水処理技術」2団体、「保管・貯蔵技術」6団体、「その他の関連技術」4団

体でした。今年は、中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (JESCO) も参加、活発な意見交換が行われました。

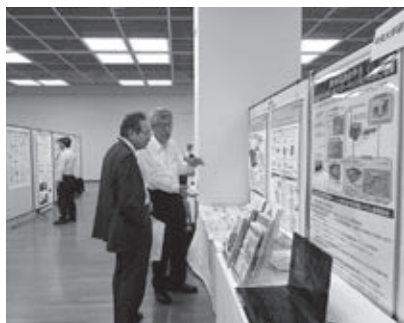
計測技術としては、ドローン (無人航空機) を活用した高線量地域の計測技術、バックエンドを見据えた除染技術、中間貯蔵に関する個別技術など、時流に乗った最新技術が散見されました。

企業展会場は、一般公開のため、地域の方々も 30 余名が来場、これからの復興計画、最新の関連技術に興味を持って見学されていました。

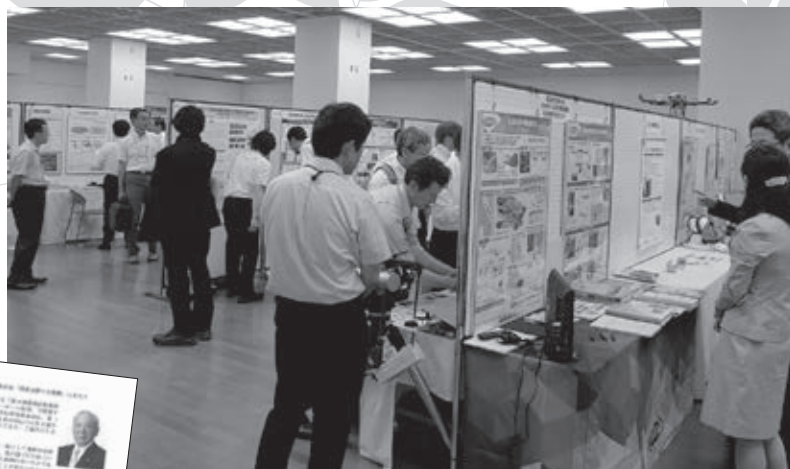
環境省・除染プラザの特設ブースでは、除染に関する一般向けのわかりやすい解説書なども配布され、大変好評でした。

また、企業展示では案内ガイドブックを毎年編集し配布していますが、今年度は田畑大会委員から、冒頭の挨拶文をいただきました。

(文責: ポスター発表・企業展示 WG リーダー 伊藤哲郎: 三井住友建設株式会社)



▲展示内容に森田実行委員長も質問



▲企業展の様子



第4回環境放射能除染
関連技術企業展 2015
Guide Book の表紙▶

◀第4回環境放射能除染
学会企業展ガイドブック
田畑大会委員長 巻頭言

企業展示 会場風景

(4) 懇親会会場からの報告

研究発表会二日目の7月9日(木) 17時30分から、発表会場であるタワーホール船堀の2階宴会場「瑞雲」にて、懇親会を開催しました。

懇親会には、当日参加者の半数を超える約 120 名の皆さま方がご参加くださり、広い会場が手狭に見えるほどでした。

田畑日出男大会委員長 (学会副理事長) の主催者挨拶に続き、ご来賓の中間貯蔵・環境安全事業株式会社代表取締役社長谷津龍太郎様、環境省大臣官房審議官 (中間貯蔵施設等ご担当) 高橋康夫様、福島県生活環境部参事佐藤弘美様に挨拶をいただき、国立環境研究所の大迫政治大会実行副委員長の乾杯音頭の下、会は和やかに進行しました。

翌日の国際シンポジウム講演者のティエリー・シュナイダー博士 (フランス原子力防護評価センター)、マルゴザータ・K・スナバ博士 (ノルウェー放射線防護庁)、金子真司様 (森林総合研究所)、宮原要様 (日本原子力研究開発機構) も懇親会にご参加くださり、ご来賓、ご講演者を交えた意見交換や懇親が会場の至る所で行われ、ご参加の皆さまには有意義な時間をお過ごしいただけたことと存じます。

塚田高明大会副委員長 (学会副会長) の中締めまで、途中退席される方もほとんどおられず、盛会のうちに 19 時半過ぎにお開きとなりました。

ご参加くださった皆さま方に、心より感謝申し上げます。

(文責: 懇親会 WG リーダー 湯浅建: 鹿島建設株式会社)

懇親会 会場風景



▲谷津 JESCO 社長



▲田畑大会委員長
開催挨拶



▲大迫政浩 国立環境研究所資源
循環・廃棄物研究センター長
乾杯の音頭と祝辞



▲佐藤弘美 福島県
生活環境部参事



▲会場風景



和やかな雰囲気
で挨拶に耳を傾ける
参加者の皆さん▶



▲乾杯！



▲ Dr. Thierry Schneider
フランス原子力防護評価
センター 副センター長
挨拶



▲ Dr. Malgorzata. k.
Sneve ノルウェー放
射線防護庁 規制協力
プログラムディレクター
挨拶



▲高橋康夫 環境省大臣
官房審議官 祝辞